

## 「～とする」「～にする」文における 主語の存在について

大 塚 望

はじめに

文において主語は、述語と同様に重要な位置を占める。それは、文が述べる内容である「何がどうする」の「何が (主語)」と「どうする (述語)」という二大要素となるからだ。ところが、日本語においてはその主語が文の中に顕在化しないことがしばしば起こる。それは、重複することを避け経済的に言語活動を行うための省略もあるが、その一方で、単なる省略ではなく、そもそも主語を必要としないのではないかとさえ思われる文も存在する。とりわけ、形式動詞「する」を述語とする文ではそのような現象が見られるのである。このことは何を意味するのであろうか。形式動詞特有の問題なのだろうか。

主語の在り様を明らかにすることは、形式動詞という特殊な動詞を考察するうえで大きな示唆を与えてくれると考え、本稿では、特に「～とする」文と「～にする」文を取り上げ、主語の存在にアプローチしながら両者の違いと動詞の特徴について考察していく<sup>1</sup>。

## 1. 「～とする」「～にする」と主語

「～とする」についての先行研究の中で、主語の問題が考察ポイントの一つとして取り上げられている。具体的には中山(2000)「主体の明示・非明示」、岩男(2007)「動作主の有無」という用語によって、それぞれ分析が行われている。一方、「～にする」の先行研究では、もともと「にする」だけを取り上げた論文がないことから、主語に関する論考も見られないのが現状である。

以下では、まず「主体」「動作主」「主語」などの用語の検討を行い、そして実例をもとに主語の存在について検証し、考察を行う。このことによって、明らかにされる点が三点あると考える。一点目は、主語の存在の有無、特に無い場合の意味するものとは何か。二点目は、「する」という形式動詞の特徴。動詞述語にとって対となるべき主語の存在は、動作のあり方と関係する。もし動詞によって主語の提示の仕方が変わるとすれば、主語の存在を確認することは動詞の性質や特徴を明らかにするはずである。そして、三点目は、「にする」と「とする」という格助詞が一つだけ異なる二つの文の相違点である。

## 2. 主となる語とその存在—用語の検討

動詞にとって、また文にとって、主となる語は「主語」「主格」「主体」「動作主」などと呼ばれるが、本稿の分析においてどの用語を用いるべきか考えてみたい。

まず、動詞を中心に考えるならば、その動作を行う者は「動作主」と呼ばれる。これは意味論的な観点から形式的な格を表記したものである。ところが、「～とする」「～にする」文の「する」が「動作」かと言えば、必ずしもそうとは言えない。「する」が何か具体的な意味を持つ場合と、まさに形式動詞らしく意味が非常に曖昧な場合とがある。当該の文におけるそれは、必

ずしも動作を表す主体とは限らない。

また、「主体」は、統語論的な用語としても意味論的な用語としても一般的に認められた用語ではない。むしろ通常に用いる語の側面が強く、その意味も曖昧である。ただし、述語の持つ動作あるいは状態の主体として、両方の意味でそれを表せるという利点を持っている。

そして、「主格」は、その名詞がその動詞にとって主となる存在であることを示す、統語論的分析に使われる用語である。文における名詞と動詞との関係性を示すのが格であるならば、その見方は、形式的に顕在化している名詞を扱うのであって、潜在化している名詞はその対象にはなりえない。

最後に、「主語」は、統語論と意味論どちらの側面も持ち合わせており、述語に対する主となる語を指す。「する」は単独で述語となるだけでなく、その他の要素と結合して述語としての働きを示すこともある。そのため動詞と対になる概念である「主格」や「動作主」よりも、「する」を述語と捉え、それに対する主となる語「主語」の方がより適していると考える。また、顕在化・潜在化の可能性のある要素を分析するにも、動作・状態の主であることを示すにも問題がない。したがって、本稿では以上の理由から「主語」という用語を用いることにする。

さらに、先行研究におけるこれらの「明示・非明示 (中山 2000)」や「有無 (岩男 2007)」「特定可能 (同)」「生起できない (同)」との用語は、何を意味するものか、この点も確認し整理しておく。用語は異なるものの、これらの意味する点は共通している。つまり、文中に形式的に現れているものを「明示」あるいは「特定可能」とし、文中に現れていない場合には「非明示」あるいは「生起できない」としているのである。本稿では、これをさらに細かく限定し、以下の三つに分けることとする。

- ・主語が文中に形式上指示できるものとして現れているものを「顕在化」とする。
- ・主語が文中に形式上指示できるものとして現れてはいないが、前後の文脈の中にそれを指示・指定できるものを「潜在化」とする。

(84)

- ・主語が文中にも文脈の中にも指示あるいは特定できず、その文が主語を必要としていないものを「生起不可」とする。

### 3. 「～とする」文の主語

以下では、実例を提示しながら主語にあたる名詞と「とする」に下線を引いて示す。また、主語が潜在化している場合には、それを（ ）の中に入れて下線を引く。潜在化したのではなく、生起不可の場合には（φ）と記すこととする。以下、構文ごとに見ていく。構文は、補文を持たない構造として「名詞ガ名詞ヲ名詞トする」「{名詞ガ名詞ヲ／名詞ガ} 動詞（ヨ）ウトする<sup>ii)</sup>」をあげ、補文を持つ構造として「文コトトする」「文モノトする」「文トする」をあげる。実例は、新聞記事<sup>iii)</sup>と小説という二つのジャンルから取り上げた。

#### 3.1. 「名詞ガ名詞ヲ名詞トする」文の主語

##### 3.1.1. 主語が顕在化している場合

- (1) 中日が4連勝で、貯金を今季最多の20とした。2012.8.18
- (2) 同社は、来夏のセールでは、開始時期をさらに後ろにずらして8月1日頃とする方針だ。2012.8.22
- (3) 人間の虚栄心は死をも対象とすることができるまでに大きい。(人生論ノート)
- (4) その痣は自分が付けたものだ、という事実を、伊木は心の支えとした。(砂の上の植物群)

いずれの例も主語があり、それが顕在化している。

##### 3.1.2. 主語が潜在化している場合

- (5) 区はこの日の区議会で、後継医療機関に決まっている地域医療振興協会（千代田区）がまとめた「事前相談計画書」の概要を初めて公表した。(中略) (区)は) 小児科の常勤医師の人数は日大病院から7

人減の9人、産婦人科は3人減の2人とした。2012.3.15

- (6) JR北海道は14日、昨年5月のJR石勝線特急脱線炎上事故など脱線事故やトラブルが相次ぎ、今冬の運休本数が過去10年間でワースト1になったことなどを受け、安全輸送のための体制強化策を発表した。(JR北海道は)過去の事故などを分析して再発防止につなげる専門部署を新設するほか、2013年春の採用で現場の技術職を前年の3割増とする。2012.3.15
- (7) 「出る時は(出て官途に就く時は)人に委せ、退く時は自ら決せよ」というのが気に入っていて、(彼は)信条としたいような口ぶりであったという。(山本五十六)
- (8) (私が)頼みとするものは、小さな茶筒に入った甘納豆一缶であった。(孤高の人)
- (9) (私は)糠をまるめてふかしたのを弁当とし、車中、きぬにもたれかかって居眠りする大男を肘でついて、逆に頭をこづかれ、(焼土層)いずれも主語と考えられるものは文脈の中に存在し、それを特定することができる。潜在化していると考えられる例である。

### 3.1.3. 主語が生起不可の場合

- (10) (φ)北海道十勝地方南部を震源とする地震があり、浦河町、浦幌町で震度4を観測した。2012.8.22
- (11) 札幌市周辺の高齢者関連施設で発生した(φ)白菜の漬物を感染源とする腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒 2012.8.20
- (12) (φ)最高の状態を100とすると、現在は何れくらいの仕上がりがかという質問に、尾崎は「90」、木崎は「60～70くらい」2012.8.4
- (13) 加藤は、その彼の行動が、一種の取りみだしであって、そのように彼を追いこんだのは、彼におさがりを押しつけようとした影村一夫の不信行為に対する怒りと、(φ)影村一夫を代表とする人間への抵抗であると考えた。(孤高の人)

- (14) 私がさまよい込んだ丘陵地帯は、(φ) ブラウエン、アルベラ、オルモックの各作戦地区を頂点とする三角形の中心に近く、いわば颯風の眼のように無事であった。(野火)

これらの例は前後の文脈を確認しても、主語を指示できず生起不可と判断される例である。生起不可であるということは何を意味するのか、次項から考察する。

### 3.1.4. 主語生起不可の連体修飾節—「とする」状態

主語が生起不可能だと考えられる文のうち、連体修飾節の構造をとる例は、以下のように、連体修飾節を通常の文に直そうとすると主語を立てることができない。

- (13) 影村一夫を代表とする人間 → #人間が影村一夫を代表とする  
(14) 各作戦地区を頂点とする三角形 → \*三角形が各作戦地区を頂点とする

(13)は、影村一夫を代表とした(決めた)のは誰かわからないだけでなく、そもそもそのこと自体が問題とされていない。「影村一夫がその代表である人間」という意味であって、「する」に動作性は感じられない。さらに、(14)では、当然ながら「三角形」が作戦地区を頂点と決めたわけではない。こちらも元々「する」には動作性がない。つまり、「各作戦地区が頂点である三角形」あるいは「各作戦地区が頂点となっている三角形」という意味である。ただし、主題のある文にするとこの文は成立する。また、このような主語が無いと考えられる文は、实例でもたいてい有題文である。

- (14') この三角形は各作戦地区を頂点とする。

- (14'') 丘陵地帯は各作戦地区を頂点とする。

ただし、(13)の例はこれも許容しづらい。

- (13') \*人間は影村一夫を代表とする。

さらに、主語を立てられないだけでなく、その被修飾語はどのような格をもって修飾部の中に埋め込むことができない。つまり、外の関係<sup>iv</sup>を示す連体

修飾節である。

影村一夫を代表とする人間

→\*人間が影村一夫を代表とする

\*人間に影村一夫を代表とする

\*人間で影村一夫を代表とする

\*人間を影村一夫を代表とする

いずれも不可能である。同様に「各作戦地区を頂点とする三角形」→「\*三角形が各作戦地区を頂点とする」「\*三角形に～」「\*三角形で～」「\*三角形を～」とこれも不可能である。主語の無い外の関係であり、外の関係であるということは被修飾語を主語とすることのない連体修飾節であるということである。

### 3.1.5. 主語生起不可の主節―「とする」状態・仮定

次に、主語が生起不可と考えられるもののうち、「とする」が主文の末尾に来る例を見てみる。

- (15) 早瀬がいった。「今夜は、とくに罐詰を支給して(φ)慰労会とする。」  
(驢馬)

「慰労会とする」と早瀬が言った以上、慰労会に決定した人物は早瀬である。そのため、主語は早瀬、つまり「私」であってもいいはずだが、実際にその文を作ると「\*今夜、私が慰労会とする」のようにかなり不自然な文ができあがる。そのため、このような「とする」文は有題文であっても主語そのものは無い文だと考えられる。

- (16) (φ) 警視庁の命令により、青山の分院は患者の転院が済み次第閉鎖休院とする。(楡家の人びと)

この文は解釈にいくつかの可能性を持っている。例えば、閉鎖休院という事態を引き起こしたものが、警視庁なのか、警視庁の命令を受けた別の機関なのか、あるいは話し手自身なのかは判然としない。それは「警視庁が青山の分院を閉鎖休院とする」という文とも原文は異なるし、「警視庁の命令を受

けたある者が青山の分院を閉鎖休院とする」という文とも当然異なる。また、「警視庁の命令により私が青山の分院を閉鎖休院とする」という文とも全く異なるのである。原文は、提題によって「青山の分院は」と取り上げ、結果的に閉鎖休院となったことを述べているに過ぎない。要は、青山の分院が閉鎖休院になることを提示していると考えられ、この文においても主語の存在は曖昧である。

- (17) (φ) 市財政課によると、同制度は事業費 130 万円以上の工事の入札が対象で、最低価格を下回る金額で応札した業者は即刻、失格とする。2012.3.15

この例の場合、業者を失格と決める主語は何かというと、この文の主題である「同制度」と考えるのが一応筋だが、「同制度が業者を失格とする」と考えると少し違和感がある。あるいは、「市行政課」を主語と考え「市行政課が同制度によって業者を失格とする」とできなくはないが、やはり解釈のしすぎと感じられる。文脈を調べてみても主語が無いのがむしろ自然である。

- (18) 「(φ) 当刑務所は、サービスをモットーとしております。」(ブンとフン)

文脈を見ても主語が何かを規定することはできなかった。例えば、(18)を「\*当刑務所がサービスをモットーとしている」「\*所長が経営においてサービスをモットーとしている」と考えることはやはりできない。ところが、「当刑務所はサービスがモットーです」と同意と言ってもいい。助詞のパターンは「DハBヲCとする」に対し「DハBガCである」で異なるが、提題で取り上げた事柄「D」についてどうであるかを述べる文と考えられる。この他にも「文芸部は創作活動をメインとしている」「我が家は居間を寝室としている」「芸術は心を舞台としている」などの例を簡単に作ることができる。やはり、状態性のある動詞であることを示している。

一方で、(12)「(φ) 最高の状態を 100とすると、現在は何れくらいの仕上がりがかという質問」は主語が生起不可であるが、意味が仮定を表す。この場合は状態でない。

### 3.1.6. 主語が生起不可能であることの意味

さて、主語がないというのはどういうことだろうか。主語はあるがそれが重複などの理由によって潜在化しているというのではなく、もともと主語そのものが要求されない文とは何なのか。「～とする」の例文と意味的にほぼ同じ文を作例すると、以下のようになる。

- (14) a. 各作戦地区が頂点である三角形
- b. 各作戦地区が頂点となっている三角形
- c. 各作戦地区が頂点と考えられる三角形

しかし、いずれもそこには主語が存在する。こう考えると、「～とする名詞」の連体修飾節は意味的には、これら「である」「なる」「考えられる (受身)」などのように「他動性のない」表現であることが見えてくる。「とする」は「する」という動作動詞であり、しかもヲ格名詞句をとることを考えれば、他動詞であるはずである。それにもかかわらず、他動性はなく「状態」を示しているということになる。形式的には他動詞であるゆえに他者に影響を与える主語 (動作主) を要求するのが当然であるが、その本質は自動詞や受身、状態動詞と変わらないためにその仕手である主語を求めることがないということになる。これは、「～とする」文における重要な点として特筆すべきものだろう。

さらに、次の例文は文脈から主語を見つけることはできる (潜在化) が、それが不自然な主語認定ではないかと考えてしまうものである。

- (19) 四十歳をもって初老とすることは東洋の智慧を示している。それは単に身体の老衰を意味するのではなく、むしろ精神の老熟を意味している。この年齢に達した者にとっては死は慰めとしてさえ感じられることが可能になる。死の恐怖はつねに病的に、誇張して語られている、今も私の心を捉えて離さないパスカルにおいてさえも。真実は死の平和であり、この感覚は老熟した精神の健康の徴表である。どんな場合にも笑って死んでゆくという支那人は (?) 世界中で最

も健康な国民であるのではないかと思う。(人生論ノート)

文脈から「(支那人が) 四十歳をもって初老とする」と捉えることもできる。しかしながら、これほど文脈を探ってまで(特に後方照応)主語を確定しなければならない理由はどこにあるのか。私たちが文を読み理解する場合にそこまで「とする」を行った主体を探るだろうかと考え、このような「とする」には、もともと「誰かが」そうしたことに言及しない表現なのではないか。「そうした」ことの結果に焦点があり、「誰が」は問題とされないということである。つまり、「とする」は「する」でありながら「である」という状態性を持つものだということが、主語が潜在化している例にも見られるということである。

### 3.1.7. 主語の存在と「とする」の意味・用法

以上の考察をまとめると、「名詞ガ名詞ヲ名詞トする」文においては、主語が顕在化しているもの、主語が潜在化しているもの、さらに、主語が生起不可、あるいは特定する必要のないもの、の三パターンが見られた。主語が生起不可能であることは、主語が不要であることを意味し、「名詞ヲ名詞トする」の他動詞構造を取りながら、その動作主たる主語を必要としない、他動性のない動詞である。加えて、他動性だけでなく「名詞ヲ名詞トする」は「名詞ガ名詞である」と同様の意味を示す。「する」は行為でありながら、その表向きの動作性を取り去った、状態性を示す動詞であり、その点で形式動詞の形式性を示していると言っている。

「名詞ガ名詞ヲ名詞トする」の表す意味  $v$  について、主語との関係から述べる。

(20) 県は19日、この弁当を原因とする食中毒と断定した。2012.8.20

(20') 県はこの弁当を食中毒の原因とした。(決定)；県→(弁当=原因)

(20'') ( $\phi$ ) 食中毒はこの弁当を原因とした。(事実描写)；(弁当=原因)

主語を持つ(20)は「決定」の意味を示し、主語を持たない(20'')は「事実描写(断定)」の意味でコンピュータの役割を果たしている。

- (21) 体制強化策を発表した。(JR北海道は)過去の事故などを分析して再発防止につなげる専門部署を新設するほか、2013年春の採用で現場の技術職を前年の3割増とする。(決定):JR北海道→(技術職=3割増)

主語がある(21)も「決定」あるいは「規定」を表すと考えられる。このような新聞の実例によく見られるように、前の文脈に必ず「発表した」「公表した」が述べられ、その内容について報告する際に「とする」が用いられるという流れがある。「とする」は報告という文脈あるいはスタイルの中で用いられることが多い。

- (1) 中日が4連勝で、貯金を今季最多の20とした。(変化):中日→(貯金⇒20)

(1)は4連勝の結果20に変わったことを表しているため「変化」と捉えることができる。ただし、この変化は、「中日」という主語が引き起こしたとの積極的な読みはない。

以上のような「とする」は「対象同定型」「取り決め型」(中山2000)と言われるが、上述したように「変化」も見られた。

次に、いわゆる「仮定」を表すものはどうだろうか。

- (12) (φ) 最高の状態を100とすると、現在はいくら程度の仕上がりにという質問に、尾崎は「90」、木崎は「60～70くらい」2012.8.4(仮定)

- (22) (φ) かりに一町歩当りの植林費を六万円としても、この事件は約六億円の損害である。(パニック)(仮定)

前後の文脈を見ても、そう仮定しているのが「私」なのか「我々」なのか定められず、また定めるのも文意からすると正しくない。したがって、主語が無い。先行研究においても、中山(2000)は「仮定的事態設定型」は「主体非明示」であると述べ、岩男(2007)は「タイプ2(いわゆる『仮定条件』のこと)」は「動作主は生起困難」と述べた。非明示というよりは生起困難の方が妥当であろう。ちなみに、「仮定する」という実質動詞と比較すると、

こちらの方が主語を想定しやすい。この点が「する」という動詞の曖昧性によるものなのではないかと考える。

- (22) かりに一町歩当りの植林費を六万円と (私が) 仮定しても、この事件は約六億円の損害である。

### 3.2. 「[名詞が名詞ヲ／名詞ガ] 動詞 (ヨ) ウトする」文の主語

#### 3.2.1. 主語が顕在化している場合

- (23) 専門家は「紛争の激しさや、日本軍が秘匿しようとした敗戦の実態がわかる貴重な資料」と評価している。2012.8.14
- (24) 俊介は策略のむだを説明しようとして口をひらきかけたが、圧倒的な不利をさとってやめることにした。(パニック)
- (25) 宮村の中には関東の登山家たちに笑われまいとする 関西人登山家としての魂が眼を覚ましていた。(孤高の人)

主語は文の中に顕在化し下線部のように指示することができる。

#### 3.2.2. 主語が潜在化している場合

- (26) 吉田さんは、爆弾を搭載できるよう改造された練習機「白菊」で体当たり攻撃の訓練を繰り返した。「覚悟を決め、両親に向けて辞世の句も詠んでいた」という。8月15日、沖縄への出撃のために準備を進め、(吉田さんが) 飛行機のエンジンをかけようとした際に、玉音放送が流れた。2012.8.16
- (27) (私は) もどろうとすると呼びとめられた。(パニック)

主語が文脈の中に見出せ特定が可能なもので、潜在化と分類できる。岩男(2007)でも「タイプ3『意志形+とする』は「動作主は特定可能」としている。ところが、特定不可能なものもある。

- (28) 現在の静岡県は、遠江、駿河、伊豆の3国を併合して1876年に発足した。同館市史編さん室嘱託員の梅原郁三さんによると、図解は「郡役所の位置などが明記しており、(φ)新体制を多くの人に知ら

しめようとしたのではないか」という。2012.8.16

潜在化している可能性を考え前後の文脈を探すが、具体的な名詞は現れない。文意をくみ取って想定するというレベルで言えば、図解を制作した人物がこの文の主語として考えられる。その場合は「図解は『郡役所の位置などが明記してあり、（製作者が）新体制を多くの人に知らしめようとしたのではないか』という」となる。これは生起不可、つまりは不要というレベルではない。主語は文意を取って解釈するのに任されている。ただし、「する」に意志性や動作性が感じられるので、動作主である主語が一応潜在化していると捉え、ここに入れる。

なお、まったくの生起不可はこの文には見られなかった。

### 3.3. 「文コトトする」文の主語

#### 3.3.1. 主語が顕在化している場合

- (29) 同省は、特に発生量が多く、保管場所の確保が難しい4県では国有地を活用することとした。2012.8.21
- (30) この二つの留保条件をつけて、ほくは彼に企画をゆだねることとした。(裸の王様)

両文の構造はそれぞれ「同省は [(同省が) 4県で国有地を活用する] こととした」、「ほくは [(ほくが) 彼に企画をゆだねる] こととした」である。これらの例では「とする」の決定の主語と決定内容の主語とは同じであるが、例えば「会社は [小野自身とその土地を管理する] こととした」であれば、「とする」の決定の主語は「会社」、決定内容の「管理する」の主語は「小野自身」となる。「名詞ガ文コトトする」であり、いずれも主語がある。

#### 3.3.2. 主語が潜在化している場合

- (31) 各委員は、いじめの実態を把握するには、生徒からの聞き取りが不可欠との認識で一致。精神的負担をかけないように配慮することを申し合わせた。(第三者調査委員会)は個人情報を扱うケースも多い

として会合は原則、非公開にすることとした。2012.8.26

- (32) 同社の僚船6隻は、赤道付近でカツオ漁の途中、無線で地震発生を知り、焼津港に引き返した。日本人乗組員計約70人の多くが宮城県出身。(同社は) 家族の無事は確認出来たが物資の窮乏が深刻と聞き、同県の離島や被災地を海上から支援することとした。2011.3.22

- (33) 紫の上はここ長年、自身の発願として、人々に法華経千部を書かせていた。(紫の上は) それをいそいで供養することとした。(新源氏物語)

主語が顕在化・潜在化している例では、「する」の意味は決定である。加えて言えば、特に新聞の例では決定だけでなく、そのような決まりや約束が公的に締結されたというニュアンスがある。そこに公表・発表という意味も含まれるのは、「とする」には次の「文トする」に見られるような引用動詞の役割もあるためだろう。これは、後に出てくる「にする」の決定の意味との微妙な違いにも反映されている。

### 3.3.3. 主語が生起不可の場合

- (34) (φ) 指針では、アプリが利用者の情報を取得する場合、情報の内容や目的を明記し、利用者の同意を得ることとした。2012.8.15

前後の文脈を探しても、「利用者の同意を得る」という内容を決定した主体、つまり「とする」の主語を見つけ出すことが難しい。「指針では決定の結果、そうなった」という事実を差し出している表現だと考えられる。

- (35) 投資家から提示された投資契約案の中に、(φ)「何年間で上場できなかったら、会社と社長は連帯して、株式を(投資家の都合のいい価格で) 買い取ることとする」といった条項が、シレッと入っていることがあります。2011.8.24

この例も「(?が) [会社と社長が株式を買い取る] こととする」となり、「とする」の主語が「投資家」なのか「投資契約案」なのか断定することができ

ない。その決定事項が「投資契約案」の「条項」の中でそう決まりそうになっていることを示す表現であり、決定結果のみを示すと言っていい。次の例も同様である。

- (36) 特例法案は、被災程度が激しく、予定通り選挙を執行できない自治体に限り、投票日を2—6か月間延期できるとする内容。(φ) 新たな投票日は自治体の被災程度に応じて別途、政令で定めることとする。福島県の原子力発電所事故に関連し、退避要請が出されている地域についても、延期の希望を募る対象となる。2011.3.15

新聞記事の中では、このような「文コトとする」は多用され、「条件」「法案」「規定」「条項」「案」などの公的な文書によく見られる。したがって、「する」には動作性はなく、「決める」のではなく「決まる」という自動詞的な意味を示していると考えられる。次に、小説の例もある。

- (37) その際、崔からかなり細かい条件が提示された。試合は六月九日に大邱市で行なう。百六十万の挑戦料と二千ドルのファイトマネーが交互に支払われる。内藤を含む二人分の航空券と滞在費は崔が負担する。(φ) 内藤が勝った場合のオプション、つまり興行の優先権は二次防衛戦まで崔が保持することとする。契約は来週の木曜日にしたいが、その時アドバンスを用意してきてほしい。百六十万のうちの六十万はほしいと崔は主張したが、私はそれを四十万に値切って了承した。(一瞬の夏)

これも「条件」「契約」といったことを示す例であるが、その構造は「(?が)[興業の優先権は崔が保持する] こととする」である。決めた主体は、文脈からは「崔と私」と推察できるが潜在化とは異なる。もともとの構造は「名詞ガ文コトとする」で「名詞ガ」が「とする」の主語である文だったが、この「名詞ガ」を敢えて問題にせず「決定結果」を示す「文コトとする」に発展したと考えることもできよう。

### 3.4. 「文モノトする」文の主語

#### 3.4.1. 主語は生起不可

(38) 昨年4月施行の愛知県暴力団排除条例（暴排条例）でも「(φ) 暴力団員が組から離脱することを促進し、社会復帰の支援に努めるものとする」と規定。2012.4.1

(39) 第8条で「(φ) 大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をするものとする<sup>vi</sup>」としている。2010.10.22

新聞ではほぼすべてがこのタイプの例で、主語を想定することができない。条例や法律などでそう規定されたことを意味する文で、「モノトする」に実質の意味が感じられない。また、これら「文モノトする」は先の「文コトトする」と意味がほとんど同じであり、同様に決定の結果を示すものとなっている。

(40) 利益は長期的に一定の率で成長すると考え、(φ) 企業は永続するものとすると、理論株価は次の式で表される。2011.5.26

(41) (φ) 仮に誰も死なないものとする。(人生論ノート)

(42) (φ) アキレスがA点、亀がB点にいて、アキレスが亀を追いかけるものとする。(若き数学者)

(43) (φ) すべての利益には、次のA、Bを含むものとする。(一瞬の夏)

(44) (φ) もしも、あのドスト氏が、罪と罰をシノニムと考えず、アントニムとして置き並べたものとしたら? (人間失格)

小説の例は、ほぼすべて仮定の意味を表す文であった。いずれもやはり主語が想定されない。また、これらの仮定を意味する「モノトする」から「モノ」を削除しても意味的に何ら変化が起こらない。「モノトする」の方が幾分古めかしい堅い表現である。

以上、「文モノトする」の実例では主語が顕在化・潜在化する例は見当たらなかったが、作例をすれば、決定を意味する文では顕在化がないわけではない。例えば以下のものである。

- (45) 調査委員会は田中氏が損失を埋めるものとした。
- (46) 地方自治体は企業が税率5%を上乗せするものとする。

これらは「名詞ガ文モノトする」であり、主語の顕在化と潜在化は認められる。

### 3.5. 「文トする」文の主語

#### 3.5.1. 主語が顕在化している場合

- (47) 府交通道路室長は「この取り組みを足がかりに、統合に向けた作業を進める」とした。2012.3.15
- (48) 平野氏は、アジアでも、法人向け融資を拡大するだけでなく、「第2のユニオン・バンクを持ちたい」と述べ、個人と取引する地元金融機関の買収に意欲を示した。そのうえで、全体の収益に占める海外の比率を、現在の約25%から将来的には40%程度まで高めたいとした。2012.4.14
- (49) 区は「協会から『獲得交渉に影響する』などと言われている」などとした。2012.3.15

「府交通道路室長は〔この取り組みを～進める〕トした」の構造を持ち、「名詞ガ文トする」とまとめることができる。主語がある文である。

#### 3.5.2. 主語が潜在化している場合

- (50) 検察側は「犯行は計画的、常習的、組織的で、極めて巧妙かつ悪質」と主張。被害は未遂1件を含む23件で計1049万円とし、(検察側は)「長年組織犯罪を行い、規範意識が鈍磨し、再犯の恐れがある」とした。組織内の役割については、(検察側は)大下被告は「社員を指揮しており、責任は重大」とした一方、岩間被告は「重要な役割を担ったが、トップの大下被告に従わざるを得なかった」と指摘した。2012.3.15

主語が顕在化・潜在化している場合の「とする」は、引用を表す。引用を表すマーカーとして格助詞トがあり、その前の補文が引用の内容である。それ

を受ける形で引用動詞の「する」が後続する。引用動詞「する」によってどのような引用が示されているかについては、別稿に譲るが、「言う」「判断する」「考える」などの様々な意味を含みうるのが「する」という引用動詞である。その判断や発話を行った動作主として主語が存在するため、顕在化、潜在化の二つが可能性としてある。なお、小説には「とする」を用いた引用の例は見つからなかった。

### 3.5.3. 主語が生起不可の場合

- (51) (φ) 例えば、十三という数字の上に一ドルを置いたとする。(若き数学者)
- (52) (φ) まあ、なんとか、我慢しとおせたとする。(砂の女)
- (53) (φ) 君が何かを信じるとする。それはあるいは裏切られるかもしれない。(世界の終り)
- (54) (φ) 例えば初めて来た家政婦に自分の書斎の掃除をまかせるとする。(人生論ノート)

これらはすべて仮定を意味し、これまで述べた通り仮定を意味する文では、主語は無い。(54)「[初めて来た家政婦に自分の書斎の掃除をまかせる]と(\*私が)する」となり、仮定の主語を設定すると不自然である。なお、「～とする」「～たとする」の二つの形態があるが、その意味はほとんど変わらない。構文的には「名詞ガ文トする」の「名詞ガ」がなくなっていると考えられる。

次に、文末ではなく仮定を意味する条件節を作る文についても、以下同様である。

- (55) (φ) 宮村があくまでも加藤と二人で北鎌尾根を狙うとするならば、今日中に肩の小屋に着いて、そこで天気の間間を見て北鎌尾根へ出かけるという手を使うしかない。(孤高の人)
- (56) (φ) たとい山本が名を名のつたとしても、彼の名前は、未だ部内にそれほど知れわたってはいなかった。(山本五十六)

## 3.6. まとめ

以上、「～とする」文における主語について考察してきた。その結果をまとめると表1になる。該当箇所には○を、該当しない箇所には×を付す。

表1. 「～とする」文の主語の存在

	文型	主語顕在	主語潜在	主語生起不可
補文なし	名詞ガ名詞ヲ名詞トする	○	○	○
	{名詞ガ名詞ヲ／名詞ガ} 動詞(ヨ)ウトする	○	○	×
補文あり	名詞ガ文コトトする (決定)	○	○	○
	名詞ガ文モノトする (決定)	○	○	○
	文モノトする (仮定)	×	×	○
	名詞ガ文トする (引用)	○	○	×
	文トする (仮定)	×	×	○

一般的な実質動詞であれば、この表の主語の欄は、主語顕在と主語潜在すべてに○が付され、主語生起不可に×が付されるはずである。ところが、表のとおり「～とする」文は付されるべき主語の存在の欄に×がつき、付されるはずのない主語生起不可の欄のほとんどに○がつくという結果となった。これは、「する」の特徴である。

ここまでの考察と先行研究の結果を比較する。

まず、中山(2000)では「発話引用型＝主体明示」とされたが、主語は明示と非明示がありうる。「対象同定型＝主体明示・非明示」はそれに加え「AガBヲCトする」の最大の特徴である、その結果のみ、つまりBという対象をCと同じであるということを示すコピュラ的な働き(B=C)が見られた。「取り決め型＝主体非明示」は、この「取り決め(決定)」の意味を限定的に捉えることは難しく、対象同定との差が見えにくい。また主語は潜在化することもあった。「仮定の事態設定型＝主体非明示」はこの通りで、補文のあ

るなしに関わらず仮定する主体が存在しないという結果となった。

さらに、岩男(2007)の「タイプ1(益岡隆志の『思考の意味と引用の意味を表す』) = 動作主・特定可能」はこの通りだが、顕在化と潜在化と二つが見られた。「タイプ2(いわゆる『仮定条件』) = 動作主・生起困難」はこの通り。「タイプ3『意志形+とする』(三上章の『近未来』のこと) = 動作主・特定可能」もこの通りだが、顕在化と潜在化の二つがあった。

そして、大事な点は主語が生起不可能であることの意味である。「する」は動作動詞でありながら、その意味は、実は状態動詞のレベルにまで広がっており、ヲ格をとりながらそれは他動性を示すものではないという動詞の性質の特異性が指摘される。また、「とする」文は、その内容を吟味すると動詞であれば当然求められるべき主語がそもそも求められていない。つまり、仕手である動作主は必須事項とならないという点が、主語が生起不可能であることの意味である。

#### 4. 「～にする」文の主語

「～にする」文の主語について同様に構文ごとに見ていく。構文は、補文を持たない構文として「名詞ガ名詞ヲ名詞ニする<sup>vii</sup>」をあげ、補文を持つ構文として「名詞ガ文(動詞現在形)ヨウニする」「名詞ガ文(動詞現在形／動詞過去形)コトニする」をあげる。

##### 4.1. 「名詞ガ名詞ヲ名詞ニする」文の主語

###### 4.1.1. 主語が顕在化している場合

- (57) 武雄市は27日、指定管理者に来年4月から委託する市図書館について、改修工事に伴って11月～来年3月末の5か月間を休館にすると発表した。2012.8.28
- (58) そのうち外の象どもは、仲間のからだを台にして、いよいよ塀を越しかかる。(オツベルと象)

「～とする」「～にする」文における主語の存在について（101）

- (59) 節子は砂の中から拾い出したアイスクリームしゃくる道具を玩具にしている。（火垂るの墓）
- (60) もう一方は猛獣の習性をよく心得ていて、猛獣の習性を逆に利用して生けどりにするタイプ。（ブンとファン）
- (61) 私は寒いから昼ごはんをうどんにするわ。

#### 4.1.2. 主語が潜在化している場合

- (62) 小林所長は北京大会（2008年）後に強化委員長に就任した。日本障害者スポーツ協会の今年度の強化費は5億6000万円で、韓国の10分の1程度。最も多く分配される陸上でも2500万円だが、（小林所長は）やりくりしてトレーナーを常時7人体制にするなど、選手の支援に力を入れてきた。2012.8.28
- (63) あんなあ、（僕達は）ここお家にしようか。（火垂るの墓）
- (64) （南アフリカの凶悪な盗賊団『ライオン』が）女の子をつれさって奴隷にする南アフリカの凶悪な盗賊団「ライオン」のめくらの首領ホールス（ブンとファン）
- (65) （私たちが）今日の夕食はすき焼きにしようか。

全ての例文で、主語が特定可能であった。「AがBヲCニする」と考えると、文の意味は、BをCと見なすこと（同定）、BをCへと変えること（変化）、BをCと決めること（決定）である。主語が生起不可の例は見られなかった。

## 4.2. 「名詞ガ文（動詞現在形）ヨウニする」文の主語

### 4.2.1. 主語が顕在化している場合

- (66) 日本と韓国の両政府は、1台のトラックに両国のナンバープレートを取り付け、公道を相互に乗り入れできるようににすることで合意した。2012.8.28
- (67) 父は、前の時のようになるところ来るようにするといったが、交通事情が許さないのは、避難民でごったがえした新潟までの道のりを思

えばわかり (死児を育てる)

「日本と韓国の両政府は [トラックが公道を相互に乗り入れできる] ヨウニする」という構造を持つので、そのような方向へ努力する主語は「日本と韓国の両政府」であることがわかる。

#### 4.2.2. 主語が潜在化している場合

- (68) ファミリーマートは、徳島県で開催されている「第 27 回国民文化祭・とくしま 2012」の応援商品の第 1 弾として、徳島産の野菜をふんだんに使った「鶏と野菜の甘酢あんかけ弁当」(税込み 480 円) を、四国の約 260 店舗で 24 日まで販売している。(ファミリーマートは) 国文化祭を PR するとともに、1 日当たりの野菜摂取量が全国で最下位クラスであることから、1 食で 1 日当たりの野菜摂取量 (350 グラム) の 3 分の 1 がとれるようにしたという。2012.9.4
- (69) (あなたが) すぐ見積りをとるようにしてくれ給え。(パニック)
- (70) 「(私が) 君の席を北村と顔を合わせないようにとるようにするから出ろよ」(孤高の人)

主語は顕在化しなくとも文脈の中で指し示すことが可能である。主語の生起不可能なものは見られなかった。

#### 4.3. 「名詞ガ文 (動詞現在形/動詞過去形) コトニする」文の主語

##### 4.3.1. 主語が顕在化している場合

- (71) 農業分野への進出を検討していた東海運が、工場によるフルーツマトの栽培で実績がある津市の農産物生産販売会社「浅井農園」を知り、土地を借りて技術支援を受けることにした。2012.8.25
- (72) 私は大学を退職することにした。(IQ84)
- (73) マイケルは他人と理解し合おうとし、理解し合えなくても理解し合えたことにする。2011.10.31
- (74) しかし、君たちの言うことを信じて、今回は私が間違っていたこと

にする。(若き数学者)

(72)は「私は [私が大学を退職する] コトニした」, (73)は「マイケルは [他人と自分が理解し合えた] コトニする」という構造を考えられる。両者の意味は異なり, 補文の述語が現在形の場合はこれから行うことを決定したこと, 補文の述語が過去形の場合は事実と相違するがそう見なすこと (仮想同定) を意味する。いずれも主語が顕在化している。

#### 4.3.2. 主語が潜在化している場合

(75) 実行は, 計画を思いついてから四日目…… (私は) いつも, 行水用の水が配給されることになっている, 土曜の夜をえらぶことにした。その前夜は, (私は) あらかじめ風邪をよそおって, ぐっすり眠っておくことにする。(砂の女)

(76) (あなたは私を) ただ隣にいるというだけで, なんの交際もないことにして置いてくれ。(孤高の人)

(77) (私が) 君はご飯を食べていたことにするよ。

主語が顕在化しているのと同様に意味の違いはあるが, 主語は潜在化していても特定が可能である。

#### 4.4. まとめ

「～にする」文は「～とする」文と異なり, 主語が生起不可である場合がなかった。いずれも主語は存在し, 顕在的にあるいは潜在的に見つけることが可能であった。考察の結果を表2にまとめる。

表2. 「～にする」文の主語の存在

	文型	主語顕在	主語潜在	主語生起不可
補文なし	名詞ガ名詞ヲ名詞ニする	○	○	×
補文あり	名詞ガ文〔動詞現在形〕ヨウニする	○	○	×
	名詞ガ文〔動詞現在形／動詞過去形〕コトニする	○	○	×

### 5. 「～とする」文と「～にする」文の主語の存在

表1と表2を比較すると、大きな違いは「～とする」文に見られる主語の不在である。あるべき主語がなく、ないことに意味がある。主語の不在が引き起こす特徴を簡潔にまとめると、「他動性の欠如」, 「状態性の出現」, 「結果への視点移動」, そして「仮定」である。

一方、「～にする」文の主語は、普通の実質動詞と同様に、主語の存在は特定される。その特徴は、そうではないのにそうであると認定する「仮想同定」の意味を持つ点と「変化」の意味を持つ点である。両者は、構文の違いと意味の違い、さらに本稿で見たように主語の存在の在り方まで異なっていた。「～とする」文が特に先行研究で取り上げられた理由も、背景にはこのような主語不在がもたらす諸特徴のためかもしれない。

#### おわりに

以上、主語に着目して両者の違いに迫ってきたが、これによって両者が大きく異なる点を持つことが明らかになった。たった一文字「ニ」か「ト」かによって、これだけの違いをもたらすことは、やはり日本語の膠着語としての特徴によるものであり、改めて格助詞の力に驚かされる。しかしながら、実はこの違いを生むのは何も格助詞一字だけではない。このような特異性を示し、多様な用法を可能にしているのは、動詞「する」の持つ形式性である

ことは言うまでもない。意味が規定されない故に自由であること、それを支える諸要素の力を借りるからこそ多様性が生まれること、これらが「する」の持つ力でもある。

主語の存在は当然のこのように考えられている。あるいは、日本語の特徴として主語が省略される現象は広く知られているが、そもそも主語の必要のない文があることは興味深い事実であり、それが「する」文において多様に見られたことを指摘した。また、それが「～とする」文と「～にする」文の違いであり、意味や用法の違いまでを引き起こしていることがわかった。

今後は、主語の存在の有無がその他の「する」構文にも見られるか着目しながら、引き続き考えていきたい。

#### 参考文献

- 岩男考哲 (2007) 『「～とする」構文についての覚書』『日本語・日本文化』33号, p1-p15, 大阪外国語大学日本語日本文化教育センター
- 金子弘 (1986) 「格助詞『に』の用法分類」『文藝研究』113巻, p61-p71, 日本文藝研究會
- 菊池律之 (2008) 「変化動詞文と共起するニ・トに関する一考察——トの意味・機能の分析を中心に——」『日本語文法』8巻2号, p88-p103, 日本語文法学会
- 小泉保・船城道雄・本田晶次・仁田義雄・塚本秀樹編『日本語基本動詞辞典』1989年, 大修館書店
- 蓮沼昭子 (1985) 『「ナラ」と『トスレバ』』『日本語教育』56号, p65-p78, 日本語教育学会
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1975) 「連体修飾のシンタクスと意味—その1—」『日本語・日本文化』4号, 大阪外国語大学留学生別科 (『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版 (1984) 所収)
- 中山英治 (2000) 「仮定的な事態をさしだす『～とする』とその周辺」『人間文化科学研究集録』, p21-p31, 大阪府立大学大学院人間文化科学研究科・総合科学研究科編
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語2』角川書店

#### 例文出典

『新潮文庫 100 冊』三木清「人生論ノート」, 吉行淳之介「砂の上の植物群」, 阿川弘之

「山本五十六」, 新田次郎「孤高の人」, 野坂昭如「焼土層」「死児を育てる」「火垂るの墓」, 大岡昇平「野火」, 三浦哲郎「驢馬」, 三浦綾子「塩狩峠」, 村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」, 北杜夫「楡家の人びと」, 井上ひさし「ブンとファン」, 阿部公房「砂の女」, 太宰治「人間失格」, 沢木耕太郎「一瞬の夏」, 藤原正彦「若き数学者」, 田辺聖子「新源氏物語」, 開高健「パニック」「裸の王様」, 宮澤賢治「オツベルと象」

『IQ84 BOOK 1』村上春樹 新潮社

YOMIURI ONLINE <http://www.yomiuri.co.jp/>

## 注

- i 筆者は「する」の研究に関心を寄せているため、日本語文全体における主語の存在を考察するという観点では取らないし、また取りえない。本稿における結果が主語の存在についていくらかの参考にすべき知見となることを目指す。
- ii つまり、他動詞構文と自動詞構文がある。
- iii 出典のある例文はすべて実例である。新聞記事は日付のみ付した。
- iv 寺村秀夫(1975)による。外の関係とは「底の名詞(被修飾語)にどのような格助詞をつけても修飾部のどこにも納めることができないもの」である。
- v 意味・用法に関する詳細な研究は別稿(2013)を参照されたい。
- vi 「文ものとした」例は新聞では見つからなかった。
- vii この文型には他に「名詞ガ名詞ヲ名詞トイウコトニする」「名詞ガ名詞ヲ名詞ノヨウニする」もあるが、その代表として「名詞ガ名詞ヲ名詞ニする」を挙げた。